

教科の目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

学力調査から

- ・主語述語をとらえる力、辞書をひく力は、育ってきている。
- ・文章を叙述にそって正しく読む力が弱い。
- ・要旨・要点を的確にとらえる力が弱い。

児童の実態から

- ・全体的に文章を書くことに対しては、意欲的に取り組むことができる。
- ・自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝える力は、身に付いていない。
- ・進んで読書をする児童が増えつつある。

授業改善の重点

確かな読みをめざし、自分の考えをもって伝え合う授業の展開

改善策

- ①読解力を高めるための指導を工夫する。

- ②一人ひとりの考えを大切に授業展開を図る。

- ③伝え合う力を高めるための指導を工夫する。

- ④評価を工夫する。

具体的な取り組み

- ・言語の基本的な事項の定着を図る。
- ・読みとりに活かせるように音読を取り入れる。
- ・教材を通して「読み方」を学ぶ。
- ・学習と関連させながら、読書のはばを広げる。

- ・単元全体の学習課題を明示し、目的意識を高める。
- ・読み取りのめあてを把握させるために課題を明確に示す。
- ・一人ひとりが考えを持てるような手だてを工夫する。
- ・考えを伝え合い、学習を深める。

- ・基本的な話し方、聞き方の定着を図る。
- ・基本の形を示し、よりよく伝えるための方法を定着させる。
- ・目的意識が持てるような学習活動の工夫をする。
- ・学習した表現のよさを活かす場を設定する。
- ・言語環境の充実を図る。

- ・振り返りの場を設定し、自己評価や他者評価を行い、次時の学習へとつなげる。

【児童の変容】

- ・課題を明確にし、読みの視点を示すことによって、自分の考えをもてるようになってきている。
- ・基本の話形を参考にしながら、自分の考えを伝えようとする姿が見られるようになった。